

経営比較分析表

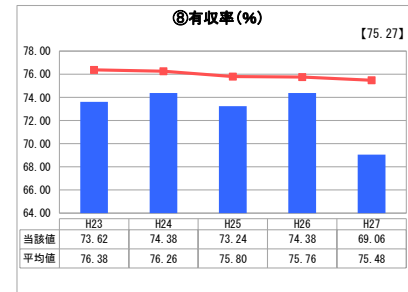
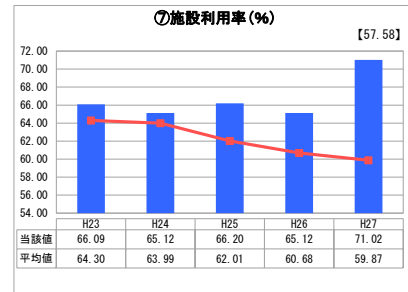
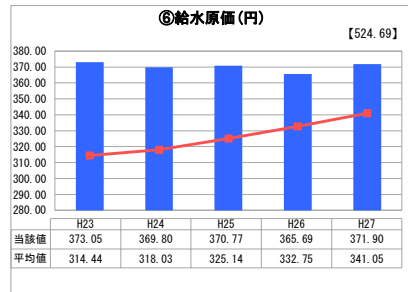
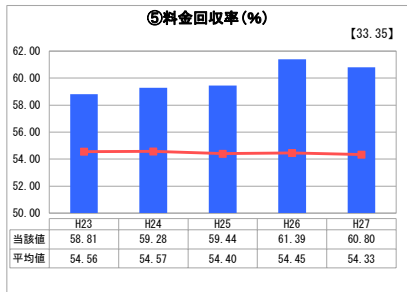
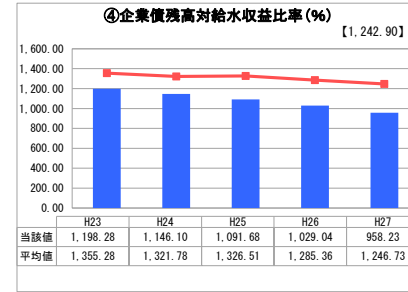
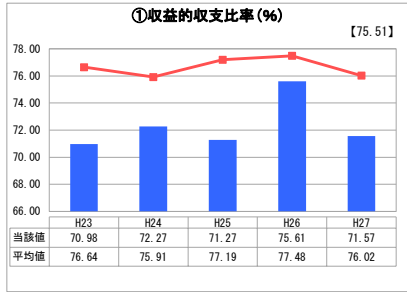
長崎県 対馬市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D1
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	該当数値なし	63.41	4,150

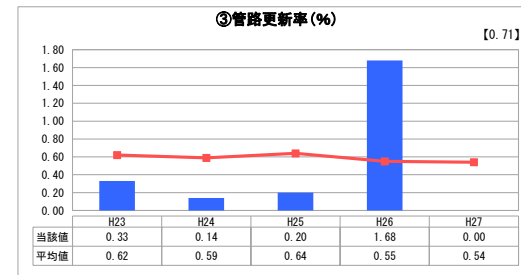
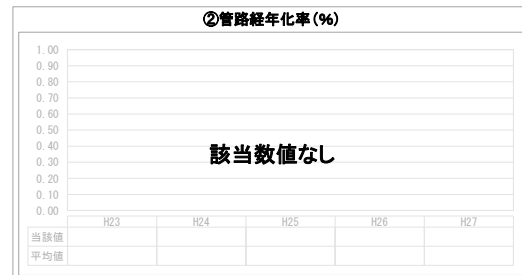
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
32,523	708.63	45.90
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
20,376	43.57	467.66

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支率は、類似団体の平均値より下回っている。水道事業を営むために必要な経費を給水収益だけでは賄えない状況であるため、一般会計からの繰入金で賄われている。

②累積欠損金比率は、類似団体の平均値より低い60%程度であり、給水に必要な経費が一般会計繰入金により賄われている状況にある。

③流動比率は類似団体平均を上回っており、コスト改善が必要である。

④企業債残高対給水収益比率は、類似団体の平均値を下回っているものの、給水に必要な経費が一般会計繰入金により賄われている状況にある。

⑤料金回収率は類似団体の平均値を上回っているものの60%程度であり、漏水に必要な要因により稼働率が高くなっている可能性がある。

⑥給水原価は類似団体平均を上回っており、コスト改善が必要である。

⑦施設利用率は類似団体の平均値を上回る稼働率になっているが、有収率は類似団体の平均値よりも低い60%台であることから、漏水等の要因により稼働率が高くなっている可能性がある。

⑧有収率については平均値を下回っており、今後は漏水調査を行うなど有収率の向上に努めていきたい。

2. 老朽化の状況について

管路の老朽化は進んでいるものの、一部を改良事業で更新している他は部分的な修繕のみで対応している状態である。今後は経営の健全維持に向けた管路更新の計画・検討を行う必要がある。

全体総括

対馬市の水道事業は今日まで、常に安全で安心な水道水を低廉な価格で安定的に供給することを基本として運営している。しかしながら、今後の事業経営については、減少傾向にある水需要に伴う収益への影響、施設の更新・整備に要する多額の投資に加えて、給水の安全性や安定性に対する社会的要素についても留意しなければならない。

平成29年度からは対馬市水道事業と経営統合するが、老朽化する施設の整備や事業の統合、運転管理及び維持管理体制の効率化など、検討すべき材料は多く、本年度策定する対馬市水道事業経営戦略に基づき、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組んでいく必要がある。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。